

# 栄光

説教・「獣の心に刻印を」	
久保哲哉教師…1	
特集・忘れられない味……………2	
西南支区常任委員会報告……………5	
西南支区婦人部報告……………6	
カナの会……………6	
週報掲載の信仰問答について…7	
長老のファイル…7	
牧師の書齋から…8	

## 『獣の心に刻印を』

説教

ヨハネ黙示録13章1節～14章1節

聖学院中学高等学校校教諭 久保哲哉

黙示録の著者ヨハネは礼拝において獣の幻を見ました。聖書が語る幻とは、蜃気楼のような幻覚や煙のように不安定なものではありません。もっと力強いものです。日本的に言うならば、私たちが思い描く理想の状態、キリスト教的な表現では、主日礼拝で示される主の御心と比べてよいでしょう。今、世界では戦争が起こつています。終戦から77年。病への不安や社会不安からでしょうか、世界中で不和・争いが絶えません。この世界・社会の現実が神の御心なのでしょう。もちろんそんなはずはないのです。主イエスは「平和を実現する人々は幸いです」(マタイ5・9)、「あなたがたは地の塩、世の光である」(マタイ

5・13、14)と教えました。これが、キリストを土台とする者が礼拝によって示される幻です。注目したいのは終わりの日には「すべての者にその右手か額に(獣の)刻印(χρῆμα)を押させ」(黙13・16)られるとの幻です。この「刻印」という言葉の原意は「削る」「彫る」という意味があり、「硬貨」とも訳すことができます。デナリオン銀貨にはローマ皇帝の像が刻まれていたので、手や額が私たちの心を表していると読み解くならば、この幻では終わりの日、人間は心や頭が経済のことでいっぱいになる結果、獣のようになってしまうことが示唆されていると理解することもできます。ここで問われて

いること、それは、私たち自身が主なる神を忘れて、その心が獣のようになってはいないかということです。

思えば、主イエス誕生の時代、皇帝アウグストゥスがなぜ「ローマの平和」を実現したのか。それは通貨の整備をしたことで急速に「獣の像がものを言うように」(黙13・15)したのです。主イエスが馬小屋でお生まれになったのは、通貨整備の一環として正確に税金を徴収するための手続きのせいでした。強者が力を振るい、弱者は命の危機に直面する中で、主イエスも黙示録の著者ヨハネも、霊的な危機感を募らせたのでしよう。私たちの生活が、心が、どのように変化してきたのか。主イエスが、ヨハネが見てきたものと、私たちが見てきたものが重なってくるのではないのでしょうか。

実際に信仰、神が失われた現代日本では人間の罪のゆえに、社会の歪みが明るみに出ています。そうした神なき現実の中で人々の心から愛・寛容・忍耐が失われていきます。もし、自分自身の内なる獣の心(罪)に気づいたとしたなら

ば、私たちはどのようにしてこれに対抗すればよいのでしょうか。それはイエスを主と告白し、洗礼を受けることです。私たちは洗礼を受けることで「その額には小羊の名と、小羊の父の名」(黙14・1)が刻印されることとなります。私たちの内にある獣の心に神の刻印が刻まれることで、私たち一人ひとりが光の子として、主イエスに倣い、平和を実現する者として生きる事が可能とされるのです。そのヴィジョン、理想の状態、神の御心・幻を追い求め、聖霊の助けによって聖なる者として生きるときに、神の平和がこの地に実現するので。

私たちの将来は光り輝いているのです。この福音の真理を知った者は「ハレルヤ」と歌うのです。たとえ倒れてもその膝は癒されて立ち上がり、喜びと感謝に生きるのです。罪に支配された獣の心に、主の十字架と復活に示された神の愛を身にまとう人は幸いです。主が共にいてくださるから大丈夫です。小羊なる主が共におられるからこそ、私たちは安心して主の道を進むことができます。

# 忘れられない味

ウクライナ危機の影響で食品の値段が高騰し、

改めて食の恵みについて思われます。

あなたの好きな食べ物、故郷の名物料理など、  
忘れられない味を教えてください。



## 伊根の鰯

秋山光子

若狭湾で捕れる鯖や鰯などの魚介類を小浜から京都に届けるため、琵琶湖の東西の街道を使って運んだ道を「鯖街道」と呼んだようです。小学4年、10才の主人は若狭湾に面した与謝半島筒川村の知足院に京都の実家を離れて学童疎開をしておりました。戦争末期食糧事情は厳しく、育ち盛りの子どもたちには余儀無いことでした。昭和20年8月の終戦前、児童40名が先生に引率され、片道8キロもある山道を伊根の港まで行進し、漁師の人たちから60cm以上もある鰯をセイタと呼ぶ背負い用具に縛りつけて貰い、今来た山道を戻って知足院に帰り着いたそうです。それから2、3日は鰯の煮物が食卓に出され、その美味しさが「今でも忘れられない」とか。10才位の児童が往復16キロの山道を鰯を背負って運んだことは、如何に戦時中であれ、今では考えられ

ないことでありましょう。

10月末に疎開は終了、京都に帰ることにになりました。帰る際通った舞鶴港には多くの小型の軍艦が沈没しており、日本は戦争に負けたのだなと実感したようです。

20年も前になりますが、主人と与謝半島の宮津、天橋立、伊根舞鶴、筒川村の知足院等を訪ねたことがあります。静かな石畳が続く佇まい、主人は当時を思い出し感無量のようにでした。その後、城崎温泉に一泊。昔を思い出すばかりでなく児童たちがその時代に共に生きた人たちの励ましにも支えられた日々であったことを心から感謝して筒川村を後にしました。

今でもウクライナやシリア等で戦争は絶えません。日本も過去に多くの犠牲を払いながら戦争を続けた時代がありました。世界の中で孤立して一部の指導者だけでなく、一般市民も熱病に罹ったように戦争にのめり込んでいたようです。国民、市民の意識が高まり、二度と戦争の無い時代が続き、「練達は希望を生む」と信じつつ、主イエス・キリストの慈しみを祈り歩んで参りたい、と思います。

## 思い出の味ミネステローネ

宇佐見泰子

じゃがいも、人参、玉ねぎ、セロリ等、大きなお鍋でコトコト煮るトマト味のスープは、我家ではキャセロールごとテーブルの真中に置き、フランスパンとサラダだけで大好きなランチメニューです。ところがです。これから約60年前の話になります。

夫の赴任先シドニーに向くべく関西から前泊し羽田空港へ(まだ成田も新幹線もない)。家族と水杯のような別れをして乗り込みました。前日迄の準備、緊張で疲れ気味。おまけに帽子、手袋、ヒールの正装ですから狭いシートは窮屈です。まず台湾で給油、次に香港です。冬服で降り立った香港は、まとわりつくようなむし暑で。機内に戻ると4人のビジネスマンだけだったのが、観光帰りの大きなオーストラリア人で満席、汗と体臭でムンムンしています。

次はマニラです。トイレが板張

りで、下に川のように水が流れていました。手洗が大きな壺に柄杓がついていて、ふと見ると指を広げたやもりが天井にへばりついてるのです。これが当時のマニラ国際空港でした。

疲れてウトウトしていると「ゲイナータイム」と起こされます。寝ぼけまなこで出された白いスープ皿を見ると「ギョッ」。そこには、クタクタの野菜のこま切れ、ドロドロの米粒、大麦粒、パルメザンチーズがどっさり。まるで乗物酔いの時の「あれ」にそっくり、もう限界です。鼻も目もふさいで必死で耐えました。後にそれがイタリアのスープで、欧米では人気の食物と知りました。コンソメか野菜のポタージュしか経験のない私には、はじめての遭遇でした。今となつては笑い話ですが、このスープを作る度にあの時の苦いつらい思いがよみ返り、おかしくなります。

これが良くも悪しくも私の忘れられない思い出の味です。ダーウインを経由して、やっとたどり着いたのが17時間後になりました。約60年前の話でした。

## 日ごとの糧を与えたまえ

桜岡 元

風に波立つ麦畑、特に大麦は穂先が長くきれいだ。風の強い日の畑に立つと自分に向って迫りくるようだ、何が迫りくるのかわからないがこのままでいいのか？

話は変わるが、先日信州へ旅行に行った。信州と言えば蕎麦、確かに美味かった。しかし原材料のそば粉は全て中国からの輸入品だと聞いて、これで信州蕎麦といえるのだろうか。日本の農業問題が気になりだした。

60年前の日本の食料自給率の推移から見ると、自給率が高くそのまま維持している品目は米と卵ぐらい。かつては自給率が高かったが今は半減しているのは魚介類、果実と野菜、いも。もともと低いものがさらに低下したものは麦、大豆などである。食料品全体で見ると昔は80%、今は40%に半減している。この原因はどこにあるのか。供給側から見ると耕作地の減

少、後継者不足による農業従事者の減少、などがある。需要側からみると需要の変化に対応できず安易な輸入に頼ったためなどが考えられる。このまま成り行きに任せていくとこの状況は限りなくゼロに向って加速してゆく。ひとたび大災害や気候変動、戦争がおきたり、戦争にまでに至らなくても考え方の違いにより輸出を止められたら、とたんに我々は食料不足から飢餓に直面する。

食料を輸入に頼っているということは別の角度から見ると、食料不足に苦しんでいる人々から食料を奪い取り、更には奪い取った食料を大量に廃棄している。日本のフードロスは年間500万トン、世界では13億トンにものぼる。

私たちは神様からの恵みを理解しないまま漫然と「日ごとの糧を与えたまえ」と祈っているのではないか。その祈りは物事の一面しか見ていない。本当の恵みを理解せず日ごとの糧を浪費しているのではないか。本当の願いとは、本当の恵み、本当の感謝とは何かなどを私は理解して祈っているのか、あらためて考え直してみたい。

## 忘れられない味

竹内正代

私の忘れられない味は、母がよく作ってくれた胚芽入りパンです。

40年程前のことですが、当時は、今のようなホームベーカリーがなく、全て手でこねて発酵まで温度を見ながら作っていました。ピザパイやバターロール、ブリオッシュなど、いろいろな種類のパンを作ってくれました。胚芽入りパンはシンプルなパンなのに、かみしめると味があり、バターが無くても美味しかったのを覚えています。パン教室を開いている先生から生イーストを分けてもらって作った焼きたてのパンでしたので、イーストの匂いがあまり無かったように感じました。

私の祖母と父はパンが好きでしたので、とても喜んで食べていました。それからしばらくして、祖母は骨折が原因で入院をして、血液の癌が見つかり、84歳で他界し

ました。

後で聞いた話ですが、母は祖母のために祖母の一番好きな胚芽入りパンを作っていたそうです。

好きなパンを沢山食べて、天国に行った祖母のことを胚芽入りパンを食べるたびに思い出します。

現在私の母はホームに入居しているため、あの胚芽入りパンを食べることはもう出来ないのは残念ですが、母からレシピを貰っていますので、近い内に母の味を再現しようと思っています。



## 海の幸

中西 泉

世界中で苦しむ人びとを思い、コロナ禍、戦争、異常気象の一日も早い収束を、と神様に祈りながら原稿にむかっています。9月号の『栄光』は食の恵みがテーマ。少し気が楽になり、お引き受けできました。

1939年生まれの私は戦中戦後の貧しかった食糧事情は鮮明に憶えています。ところが、そんな日常でほんとに美味しい！と感じた懐かしい郷愁の味があります。それこそ、恵みの食卓、母の作ったイワシのつみれ汁です。

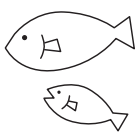
大阪泉北の高師浜の海岸に程近い我が家、「イワシがあがった」と知らせが届くとバケツを持った人々が集まります。その日の食卓は「イワシ」のオンパレードです。この日の5人の子どもの胃袋にはイワシがいっぱい。

コイワシに親指を入れ、素早くさばく母の手元、大きなすり鉢の

端っこを順番に押さえる子どもたち。新鮮なイワシのつみれ汁の味は、今も脳裡にしっかりと残る幸せの味でした。

さて、結婚した夫の趣味の一つに魚釣りがありました。ある日夫が尋ねました。どんな魚を釣ってきてほしいかと。即座に「イワシ」と答えた私に夫は苦笑しました。以後イワシはめつたに釣れることはなく、たまにまぐれで混じっているぐらい。ベラ、メジナ、太刀魚、イサキ、鮎、イワナ、ヤマメなどなど、数えきれないぐらいの魚の名前を覚え、漁師の女房ながらに、さばくことも行い、料理もしてきました。

いつの間にか食は贅沢に変わっていききましたが、むかしのCS仲間たちが集まり、賑やかに鍋を囲んだ恵みの時、最後のしめは讚美歌のメドレーでした。食べることを通じて、たくさんの幸せな時間をいただいたことを心から感謝しています。



## 忘れられない母の味と 働く姿

尾藤千鶴子

岐阜県の田畑の多い田舎で、私は両親と兄妹5人家族の中で育ちました。父は岐阜市内の中学校で教師をしており、母は家にある畑で家族のためにサツマイモ、南瓜、里芋、じゃがいも、茄子等を作っていました。農作業にはなかなか慣れなかったようです。他には鶏を飼い、私が世話をしていました。

食事は母と私でいつも準備しました。里芋の皮むきを手伝い、煮物を作り、味付けは勿論母の担当。味噌も手造りで、大根の赤だし味噌汁が定番でした。おやつは大鍋で蒸したサツマイモ。これがほくほくで甘く、美味しかったのを今でも覚えています。

お米は竈で炊いていました。食事のはじめ、いつも母はご飯を釜からお櫃に移して食卓に用意し、食事が終わると母はお櫃の底に残

ったご飯粒を一粒一粒丁寧に集めてお茶碗に入れ、お茶をかけて食べていました。そうして母から食物の大切さを教えられたことも、私には味と共に忘れられない光景です。

もう一つ忘れられない光景は、私が世話をしていた鶏の一羽を、ある日母が足を縛って庭に吊るし、捌いたことです。農作業に慣れない母の勇気ある行動に大変驚きました。その鶏は細切れにされ、牛蒡のささがきや人参と一緒に釜に入れられ炊き込みご飯になりました。私たち家族のお腹を満たしてくれました。

戦後、まだ物が豊かではなかった時代、家族誰一人として我が儘を言わず、いつも感謝して食事をいただきました。母が丹精込めて作った料理を、育ち盛りの兄たちと一緒に喜んで食べた時間は本当に幸せでした。今年、私は母が亡くなった年齢を迎えましたが、母の働く姿を思い出さず、到底母にはかなわないと思わされます。

## 西南支区常任委員会報告

今年度、西南支区の総会で常任委員に選出されました。今まで経堂北教会の長老を数年させていただいていたものの、他教会のこともや、支区、教区のことなど何も知らずに来ていた自分に支区の常任委員など務まるのか不安でしたが、御心と思い、務めさせていた

だいております。常任委員は支区長、副支区長、書記のもと、職6名、信徒6名で構成されています。常任委員は伝道、社会、教育、財務、広報などの担当を分担し、今年度、私は祖師谷教会の小河由美子牧師とともに、社会の担当になりました。

常任委員会は毎月第1月曜日の午後7時から、教会持ち回りで開催されています。会のはじめにそれぞれの教会の牧師先生の説教を聴くことができますが、基本的に経堂北教会でしか礼拝説教を聴いていなかったもので、とても新鮮な気持ちになります。また、支区の課題や教区、教団の様々な問題についても考えさせられます。経堂北教会が抱える、会員の減少、

コロナ禍による活動の制約、また、牧師の定年と招聘などの課題を自分が考えていくために役立てていきたいと思いました。自分にできることはごく限られているのですが、与えられた賜物で常任委員として、また経堂北教会の長老として精いっぱい取り組んでいきたいと改めて感じています。

西南支区の社会担当としての取り組みでは、3年間で「平和と核廃絶を祈る集い」を、「平和講演会」と合体させて、9月23日（金・祝日）午後2時から経堂北教会で開催することになりました。『自然エネルギーが地球を救う』というテーマで、講師に足利工業大学名誉教授の牛山泉先生を迎えてお話ししていただきます。会場が経堂北教会ですので、コロナ下ではありますが、感染に気を付けて是非ご参会いただくと幸いです。

（大友太郎）



## 西南支区婦人部報告

西南支区婦人部の委員を昨年から担っている。任期2年、今年は委員数6名である。他の教会のやり方や、いろんな方がいることが面白い。月に1度の委員会は委員の教会持ち回りでやっているの、他の教会を知ることができる。今年も働いている人が出やすいように、土曜日を委員会としている。

西南支区婦人部は、日本キリスト教団全国教会婦人会連合に属する。1968年10月、第15回教団総会で「自主活動団体、全国教会婦人会連合」と呼ばれることになった。全国教会婦人会連合には東京支区西南支区を通してつながっている。期ごとの全国共通の主題は中央委員会決定され、連帯のしるしとなる。今年「聖霊に導かれ、神の召しに応える―使徒言行録を学びつつ―」である。

西南支区では毎年3月に会報「せいなん」を出し、秋にイベントを行っている。今年9月27日にウクライナ出身のカテリーナさんをお招きして「チャリティーコンサート―平和への祈り―を霊南坂

教会で実施する。当日の席上献金はウクライナ救援募金となる。

カテリーナさんはウクライナの民族楽器バンドウーラ奏者で、1986年、チェルノブイリ・プリピャチ生まれ（チェルノブイリ発電所から2・5キロ離れた町）。生後30日で被災し、一家は町から強制退去。6歳の時にチェルノブイリ原発事故で被災した子どもたちで構成された音楽団に入団後、世界公演に多数参加。日本にも何度も招聘され、日本の素晴らしさに感動し19歳で音楽拠点を東京に移す。現在、日本に2人だけのバンドウーラ奏者の1人として国内外のコンサートで講演活動をされている。

私が初めてカテリーナさんのバンドウーラ演奏を聞いたのは今年の4月26日。この時は、前月キーウから避難、来日されたカテリーナさんのお母さんが避難時と原発事故時の大変な苦勞を話された。お父さんは事故後も汚染処理作業員として働き、被爆による病気で逝去されている。当日はライブ配信もするので、ぜひ見て協力していただきたい！  
(林崎光子)

## カナの会報告

日本基督教団東京教区の結婚相談部として、西南支区内には「カナの会」があります。現在支区内の3人の委員で運営しておりますが、会の主役は結婚を望んでカナの会に登録なさっている方々です。

そして、西南支区に加えて、東、南、北、西東京、千葉の各支区の相談部の集合体として構成される「若葉会」があります。各支区に登録の方々にご参加いただく「若葉会の集い」は毎年4月29日に場所を借りてパーティー形式で開催しています。日頃は支区内、または他支区に登録の方々の書類を参考に、委員で情報共有・交換しつつのご紹介なのですが、パーティーですと多くの方と直接お喋りして、そこから実際に発展なさる方々もいらつしやいます。

3年前のパーティーでは、私も西南支区に登録なさっていたお二人が、こちらでの出会いをきっかけに1年間の交際を経てご結婚。お二人とも仙台にお住まい、お付き合いの間も委員にご連絡い

ただいておりましたけれど、翌年に結婚式のお写真をお送りいただき、委員一同感謝の祈りを捧げました。

また他支区ではありましたが、毎年若葉会に連続ご参加で、全委員とすっかり顔なじみになっていた男性がいらつしやいました。やはり3年前の若葉会にご参加なさった女性とお付き合いが始まり、そしてご結婚。こちらも委員会でご報告いたいて一同喜びの拍手となりました。

残念ながらコロナ禍で2年連続「若葉会の集い」を中止してしまいましたが、来年は開催できますようにと計画を進めているところであります。

登録ご希望の方、また周りに紹介なさりたい方がいらつしやいましたら、どうぞご相談ください。入会の手続きとして、書類とお写真をご提出いただき、委員と面談してお人柄やご希望を伺います。

クリスマスチャンホームが誕生することを祈りつつ、お役を担わせていただいております。(山井直子)

## 週報に記載する 信仰問答について

第2、第4水曜日午前中の祈祷会が「聖書研究」から「教理の学び」になったのは2006年4月26日からでした。2003年4月定期教会総会で制定された「経堂北教会宣教基本方針」の基礎となる聖書と教理（教会の教え）から改めて学ぶためでした。

経堂北教会は日本基督教団に属する教会ですから、まず「日本基督教団信仰告白」から学び始めました。続いて「日本基督教団信仰問答」「信仰の手引き」を取り上げました。それから受洗講座の教材になる『10代と歩む―洗礼・堅信への道』を学びました。

その後原点に戻り、基本信条となる「ニカイア信条」、そして宗教改革が生み出した福音的信仰告白である「ジュネーブ教会信仰問答」「ハイデルベルク信仰問答」「ウエストミンスター小教理問答」「エンキリディオーン小教理問答」「アウグスブルク信仰告白」を学びました。現在は「ウエストミンスター大教理問答」を学んでいます。

す。福音的信仰告白は三要文と呼ばれる使徒信条・十戒・主の祈りを内容としています。

「ウエストミンスター大教理問答」に取りかかる前には「バルメン宣言」を取り上げました。1933年ナチスが政権を掌握し、ドイツ・キリスト者によるドイツ福音主義教会（帝国教会）が設立されました。それに対して翌年バルメン・ゲマルケ教会（ヴッパータール市）において、第1回告白会議が開かれ、ハンス・アスマツェン（ルター派）とカール・バルト（改革派）が「ドイツ福音主義教会の現状に関する神学的宣言」（バルメン宣言）起草し、「キリストに従う」ことを改めて告白したのです。

教理の学びにもなっており、2008年4月6日から週報には信仰問答が記載されるようになりました。最初は「日本基督教団信仰問答」でした。その後、福音的信仰告白が続ききました。

この8月からは「バルメン宣言」を記載しています。先の大戦を思い起こし、私たちの立場を改めて確認するためです。（岸 俊彦）

## 長老のファイル

今年の夏は久しぶりに宮古島を旅行することができました。3年前に宮古島教会を訪れた時は、新会堂を建設中でした。尾毛佳靖子先生に中を見せていただき、「次回来た時にはこの新しい会堂で礼拝を守れますね」と約束してお別れしました。

隣りに残されている旧礼拝堂は「平和のための学習室」として、地域の方との勉強会に使われていました。その日いただいた週報にも「…南西諸島の基地問題を考える大阪の市民の会の方9名が来られ、宮古島のミサイルいらない住民連絡会と交流を持ちました」と報告が載っていました。また「〇〇さんはお母様の体調が優れないため、神戸に帰宅されました。回復をお祈りいたします」といった、少人数の教会ならではの報告もあり、お互いが祈り合って、支え合っている様子が伝わってきました。

この日の礼拝出席者は8名でした。DARC沖繩に赴任された坂上彰神父が、カトリック宮古平良

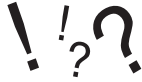
教会の朝9時からの礼拝を終えて、一緒に出席されました。今後、「平和を祈る宮古キリスト者の会」とも関わり、共に活動をしていく、とのことでした。

最初の旅行の時から、私たち夫婦はこの宮古島の海、空、風、花の香りに魅せられ、もう25回以上この島を訪れています。でもそれは同時に、毎年少しずつ島の様子が変わって行くのを目の当たりにしていることにもなっています。伊良部大橋が出来たり、気候変動などによって台風の通り道が変わり、ビーチが削られています。また、ある年からこの島には似つかわしくない迷彩色のジープも多く見かけるようになりました。

「戦争が起きたら、ミサイルが配備されている場所が真っ先に狙われる。それがここ、宮古島です」と話された尾毛先生の眼差しが強

く印象に残っています。青空に映える真っ白な礼拝堂を振り返りながら「神様どうかこの美しい島を壊さないでください、人々をまた悲惨な戦争に巻き込まないでください」と祈ることしか出来ませんでした。（沢田寛子）

## 個人消息



## 掲示板



- 聖霊降臨節第15主日礼拝  
9月11日(日) 午前10:15  
説教「自分の罪のうちに」ヨハネ8・21-24  
上野峻一教師(東洋英和女学院中学高等部教諭)
- 西南支区講演会  
9月23日(金・祝) 午後2:00 於: 経堂北教会  
『自然エネルギーが地球を救う』  
講師 足利工業大学名誉教授 牛山 泉
- 世界聖餐日 10月2日(日)
- 神学校日礼拝 10月9日(日) 午前10:15  
説教 小田哲郎神学生
- 降誕前第8主日礼拝  
10月30日(日) 午前10:15  
説教 種房惇子教師

## 編集後記



▽私の忘れられない味は、故郷・鹿児島豚骨料理です。東京ではちょうどよい肉がなく帰省する度、母に作ってもらっています。(酒井)

「栄 光」2022年9月号  
日本基督教団 経堂北教会  
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-21-11  
電話: 03-3428-5029 / FAX: 03-3428-5038  
牧師: 岸 俊彦  
編集: 栄光編集委員会  
Email: kyodon@nifty.com  
HP: <http://kyodokita.life.coocan.jp>

## 牧師の書斎から



礼拝中、換気と防音のため窓の  
開閉をします。7月最後の日曜日、  
窓際にハチが飛んでいるのに気づ  
いた方が講壇後方の外階段にハチ  
の巣を見つけました。4年前にも  
そのあたりにハチの巣ができ、駆  
除しました。今回もアシナガバチ  
の巣でした。前回は長老が外階段  
から台所に聖餐具を運ぶ際に気づ  
きました。それ以来外回りにも気  
をつけていましたが、下から高い

ところまで注意が届きませんでした。雨が多く猛暑だと、巣作りのために同じ場所に目を付けられるのでしうか。

連絡するとすぐに業者がやってきて、防護服を着て梯子をかけた駆除しました。「忌避剤を撒いたのでハチは寄らないでしょう。1週間くらいウロウロしますが、巣がないので死ぬでしょう」とのことでした。暫くして裏の外階段を掃除した妻から「ハチが7、8匹死んでいた」と言われました。20日後、教会に来た方からまだ

ハチが飛んでいると言われました。巣がないのでまだウロウロしているのかと思いましたが、よく聞くと道路に面したガスメーターの所からハチが出入りしているとのことでした。行ってみると確かにアシナガバチが出入りしています。頑丈なステンレスで覆われているため、中がなかなか確認できませんでした。上から除くと下にはゴミがたまっています。レバーを引くための横穴から中を覗くと、メーターの真下にハチの巣がありました。

前回と同じ人がきて、また防護服を着て殺虫しました。巣を取り出すことはできないので下に落とし、メーターカバーの穴をテープで塞ぎました。手の届きにくいやつかいな場所でしたが、高所ではないので短時間で駆除できました。費用は5万円と3万円、とんだ出費でした。個人でもできそうですが防護服を着るほどですから、業者に任せの方が無難でしょう。刺される人ができたり、礼拝中ハチが飛び込んだら一騒動でした。無事に駆除できて一安心です。(岸)